

# 平成30年度学校自己評価システムシート (県立春日部高等学校定時制の課程)

目指す学校像	基礎学力を身に付け、人権尊重の精神を養い、一人ひとりの生徒が生き生きと共に学び合う学校
--------	---

重点目標	1 安心安全な環境の中で、基本的な生活習慣を身に付けさせ、規範意識と自己管理能力を育成する。 2 「わかる授業」を実践し、進路に応じた学力の向上を図る。 3 キャリア教育を実践し、進路希望を実現する。 4 学校・家庭・地域社会への情報発信を通じて、魅力ある学校づくりを推進する。
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	6名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	9名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標					年 度 評 価 ( 2 月 1 日 現 在 )		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	不登校経験者や外国籍など、多様な生徒が在籍している。一人一人の生徒の社会的な自立をめざし、基本的な生活習慣を身に付けさせるとともに、ルールやマナーを尊重し、自他に配慮した生活を送れるよう指導していく必要がある。	中途退学者数を減少させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員間の情報共有</li> <li>家庭との連携</li> <li>SC、SSWとの連携</li> <li>外部諸機関との協力</li> </ul>	中途退学率(前年度9.6%)が減少したか。	中途退学率は7.2%であり、昨年度を下回った。(3月25日現在)	A	課題を抱える生徒に対して、SCやSSW等との連携により、きめの細かい対応ができた。中途退学率や出席率は評価指標の一つにすぎないので、引き続き組織的に対応する必要がある。
		出席状況を改善させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>登校時の声かけ指導</li> <li>校内巡回指導</li> <li>家庭との連携</li> <li>出席状況の推移把握</li> </ul>	出席率(前年度88.3%)が改善したか。	出席率は88.5%であり、昨年度並みであった。(3月25日現在)		
2	落ち着いた学習環境の中、きちんと授業に参加している生徒が大部分であるが、生徒の実態を踏まえた「わかる授業」を実践し、個に応じて、社会人として必要な基礎的な学力を定着させることが必要である。	授業理解度を向上させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員相互の授業見学(年間2回以上)等による授業改善</li> <li>授業アンケートの実施</li> </ul>	「授業が理解できている」との回答率(前年度83%)が向上したか。	「授業がよくわかる」「だいたいわかる」は92.1%であり、昨年度より向上した。	B	生徒の自己評価は改善されつつあるので、基礎学力を確実に定着させ、成績状況の改善につながるよう、今後も継続して取り組んでいく。
		成績不振者数を減少させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>個に応じた指導(少人数、習熟度別、TTなど)の実施</li> <li>外部指導者(多文化共生推進員、学習サポーター等)の活用</li> </ul>	各学期の成績状況が、前年度より改善されたか。	成績優良者数や成績不振科目数は例年とあまり変わらなかった。(3月25日現在)		
3	4年間をとおして適切で健全な勤労意識や職業観を育成し、進路希望実現に向けた目的意識を培うことで、卒業後の進路決定率を今以上に向上させることが必要である。	進路決定率を向上させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路講演会、ソーシャルスキル講演会等の実施</li> <li>総合的な学習の時間の活用</li> <li>生き方在り方教育、人権教育の実施</li> <li>就職指導(面接指導等)の充実</li> <li>進学指導(進学補習等)の充実</li> </ul>	進路決定率(前年度84.3%)が向上したか。	進路決定率は、現在87.2%であり、昨年度をやや上回った。(3月25日現在)	A	進路未決定者への指導は、卒業まで粘り強く行う。生徒の進路希望を実現させるために、来年度以降も進路指導部を中心とした学校全体での指導体制を続けていく。
4	「学び直し」「やり直し」の場としての本校の存在意義を説明し、本校のよさをPRするとともに、HP等をとおして最新の学校情報を提供することが必要である。	中学校等との連携を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校説明会、進路相談会等の実施</li> <li>中学校等の訪問</li> <li>学校行事実施後や部活動大会後等のHP更新</li> <li>学校見学者への対応</li> </ul>	中学校訪問等をとおして、本校の情報を適切に提供できたか。	12月には中学校や適応指導教室を全部で100か所訪問した。また、2回の学校説明会で、本校への入学希望者への情報提供を行った。	A	本校の良さを積極的に発信することができた。今後は、HP更新の頻度をこれまで以上に高めたい。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	平成31年 2月 9日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<p>昨年度から始まったサポステによる支援事業等も活用しながら、学校全体で生徒の指導にあたっており、その成果が表れている。SCやSSW等を始め、外部の教育力もよく活用されているが、引き続き、きめの細かい組織的な対応が望まれる。</p> <p>生徒アンケートの結果から、授業や学校生活への満足度が高いことは評価できる。これまでの「学びなおし」という観点も大切だが、生徒の学力向上に向け、一層専心してもらいたい。</p> <p>進路希望の実現は、個々の生徒にとって非常に重要である。組織的な対応体制が整いつつあるとのことで、今後の成果が期待できる。</p> <p>中学校等への訪問の成果は志願者増に直接つながらないかもしれないが、今後も続けてほしい。HPに関しては、「誰に発信するのか」という視点を持つことが必要ではないか。</p>	